

学校・家庭・地域で育む

「かごしまっ子の心」

学校では、道徳科を中心に子供たちの心を育む教育活動を行っています。そして、子供たちの心は、家庭・地域での活動や行事へ参加することによってより豊かに育まれます。そのため、学校・家庭・地域が連携を深め、その中で子供たちの心を育むことが大切であり、そのことはウェルビーイング※1の向上にもつながると考えています。

道徳科で学んでいることを学校・家庭・地域で生かしている様子



道徳科で学んでいること（小学校）

A 主として自分自身に関すること

- ・ 善悪の判断，自律，自由と責任
- ・ 正直，誠実
- ・ 節度，節制
- ・ 個性の伸長
- ・ 希望と勇氣，努力と強い意志
- ・ 真理の探究

B 主として人との関わりに関すること

- ・ 親切，思いやり
- ・ 感謝
- ・ 礼儀
- ・ 友情，信頼
- ・ 相互理解，寛容

C 主として集団や社会との関わりに関すること

- ・ 規則の尊重
- ・ 公正，公平，社会正義
- ・ 勤労，公共の精神
- ・ 家族愛，家庭生活の充実
- ・ よりよい学校生活，集団生活の充実
- ・ 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度
- ・ 国際理解，国際親善

D 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

- ・ 生命の尊さ
- ・ 自然愛護
- ・ 感動，畏敬の念
- ・ よりよく生きる喜び

保護者や地域の皆様へ

学校では、道徳科で子供たちが正直に生きることや友情を育むことなどの大切さについて学んでいます。学んだことを学校・家庭・地域の中でも生かすことで、子供の豊かな心は育まれます。ぜひ、子供が気付いたことや頑張っていることなど、その子のよさを見付け、声をかけてみてください。

学校・家庭・地域の宝「かごしまっ子」が心豊かに成長するように願って…

1 心の教育振興会議から

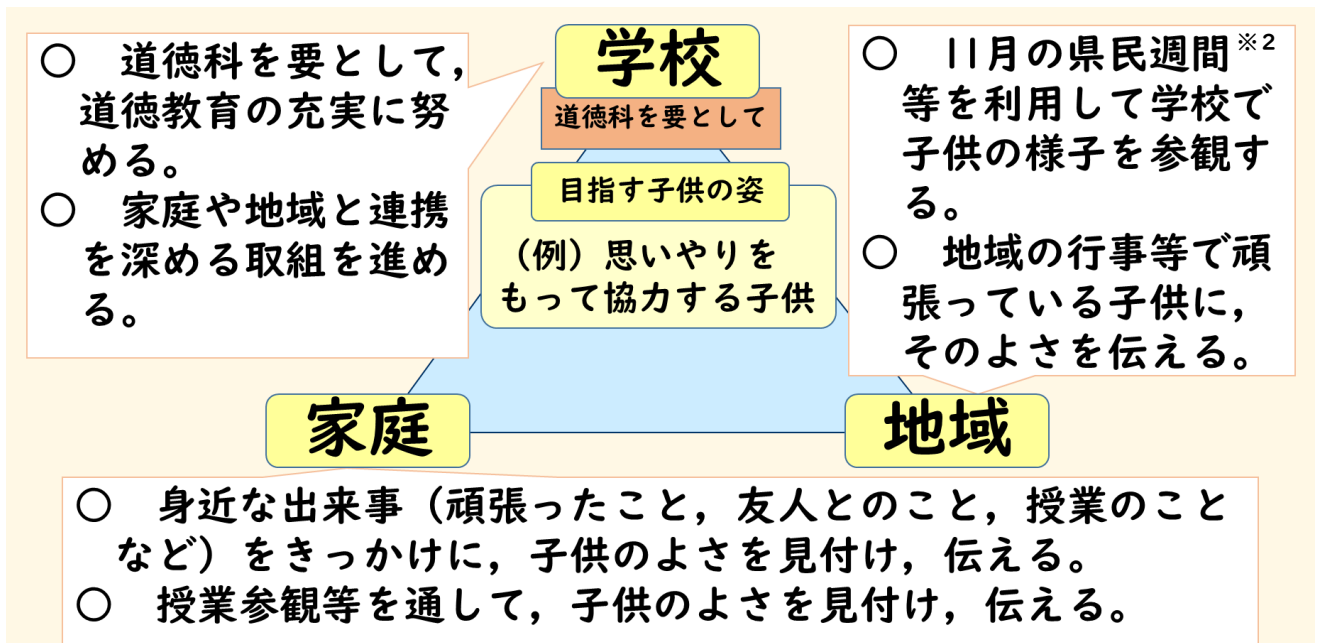
県内の各学校では、道徳科を中心に子供の心を育む教育活動を行っており、計画的な取組がなされています。全国の調査では、本県の子供たちの多くが「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答しています。また、県の調査では、多くの学校が「家庭・地域と一体となり、あいさつ運動や清掃活動などの道徳性を高める活動に取り組んでいる」と回答しています。

このように本県では、学校・家庭・地域が連携して心を育む取組がなされており、このことはウェルビーイングの向上にもつながると考えています。

今後も各学校では、子供たちの豊かな心を育むために、道徳科の指導の工夫と改善を図るとともに、「道徳教育で目指す子供の姿」を伝えるなどして家庭・地域の理解と協力を得ながら、道徳教育の推進を図っていくことが大切だと考えています。

2 学校・保護者・地域の皆様へ

学校・家庭・地域が連携を深めていくために、それぞれの役割を下の図に、例として示しました。連携を深めながら、それぞれの立場で子供の心に寄り添ったり、声をかけたりしてみてください。そうすることで、子供は、自分のよさを実感し、豊かな心が育まれることにつながります。



【学校・家庭・地域の役割（例）】



〔子供のよさを伝える言葉（例）〕

「気持ちの良いあいさつだね」「頑張っているね、すごいね」
「よく気付いたね」「片付けを手伝ってくれてありがとう」など

○ 次のページから県内の学校の取組を紹介します。

※2 鹿児島県教育委員会では、毎年11月1日～7日の期間を「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」としています。

取り組んだこと

郷土を自慢できる感情(郷土愛)を高めていくために、道徳科を要にして郷土のよさを考える学びを展開しました。特に、郷土のモノ・ヒト・コトに触れながら様々な視点から探究する特例教科「金峰学」の学習と関連性をもたせ、郷土のよさを多面的に実感できるように、子供と郷土との双方向的な関わりを大切にしました。

道徳科×金峰学「感謝」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」

【3年生】



【地域住民の講話】

地域住民：田植え踊りには多くの人の心がつまっているのですよ。

子供：私たちの金峰は、多くの人たちの苦勞と知恵に支えられている。

【道徳科：郷土のよさを考え議論する学び】

【5年生】



【保護者や地域住民による授業参観】

【先人の思いを引き継いで】



【金峰学：金峰学園フェスタ】
～郷土のよさを探究し、発信する学び～

子供：私たちもやってみたくて練習しました。

子供：米作りを教えてもらった方々に感謝の気持ちを伝えたい。

【感謝の気持ちを筆に込めて!】



- 道徳教育の目標や計画を保護者や地域住民と共有し、連携・協働していける体制を検討しました。
- 学校運営協議会 ※3 で道徳教育の現状についての周知及び課題の共有を図りました。

学校運営協議会との連携



【保護者や地域住民による授業参観】



【学校運営協議会】

- 道徳科の授業参観を通して、学習内容及び子供の学びの様子を理解してもらいました。
- 学校運営協議会で感想や意見を出し合い、連携・協力できる事項について検討しました。
→今後：道徳科、諸教育活動への支援、児童生徒会との話し合いの場の設定

子供の感想

- 3年生： 地域の伝統行事は宝物だ。
5年生： 米作りには多くの苦勞と農家の人の知恵がある。金峰コシヒカリは私たちの自慢だ。

学校から保護者や地域の皆様へ

- 学校で学習した道徳的な見方・考え方・感じ方等が、家庭・地域の中で具体的な実践となって発揮されるよう御支援ください。

※3 学校運営協議会とは、法令に基づき教育委員会により任命された委員（保護者代表、地域住民、地域学校協働活動推進員など）が、一定の権限を持って、学校運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関です。また、学校運営協議会が設置された学校はコミュニティ・スクールとなります。

取組んだこと

道徳科の授業で、国や郷土の伝統と文化を大切に守っていくことの大切さについて考えました。加治木の伝統文化「加治木饅頭」、「太鼓踊り」、「くも合戦」の保存に携わる方々を招き、交流しました。その後、保護者・地域住民と語る場をつくり『柁城っ子いいところ探し』の活動を行いました。

道徳科「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」

教材名「天下の名城をよみがえらせる～姫路城～」

教師：ふるさとのよさを守ったり伝えたりするために、大切な思いは何だろう。

子供：若い人たちに知ってもらいたい。全国に広がってほしいと願っているんだ。



【授業の様子】



【教材を活用している場面】



くも合戦保存会



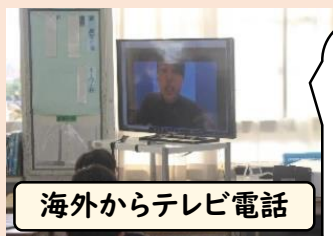
加治木饅頭

子供：同じ味を何十年も守っていくって大変そうだ。

子供：ずっと昔から続けられてきたものを私たちの世代で途絶えさせるわけにはいかない。



太鼓踊り保存会



海外からテレビ電話

子供：日本を出て初めて、日本のよさに気付いたって言っていた。日本の良さをもっと知りたい。

【地域等の人材を活用している場面】

授業終了後、保護者、地域住民、教育関係者と子供がグループに分かれ、地元の伝統や文化を大事にするために考えていることや取り組んでいることについて話し合う場を設けました。そして、そのことを認め励ましたり、今後頑張してほしいことを伝えたりしました。

交流『柁城っ子いいところ探し』



【三者+子供が交流している場面】

地域住民：いつも元気なあいさつを返してくれてありがとう。

子供：今後は、加治木の伝統や文化を大事にしていきたいと思います。



子供：柁城っ子の良いところをいっぱい書いた花を作ろう。



【頑張りの花束が完成】

子供の感想

- 地域の方の思いを知ることができ、勉強になった。加治木の伝統を大事にしていきたい。
- 加治木にはすごい文化がたくさんあると知った。
- たくさん褒められて嬉しかった。明日からも頑張ろうと思う。
- 地域の方と話ができて楽しかった。

学校から保護者や地域の皆様へ

- 今回の取組を通して、改めて三者（学校・家庭・地域）の連携の大切さを実感できました。今までやってきたことを継続する、みんなで子供たちを見守っていくといった自分にできることから始めてみませんか。
- 子供が家で言われて嬉しい言葉は「ありがとう」と「おかえり」だそうです。ぜひ、御家庭でも嬉しい言葉を伝えてみてください。

取組んだこと

道徳の授業で、鳥取砂丘の落書きを問題視した地元県議会が、落書きをした人から罰金をとるという条例を制定したことに対して、議論を行いました。その後、地元駐在所の警察官に、志布志市内の交通事故の減少の背景を中心に講話を聞きました。

道徳科「遵法精神、公德心」

教材名「美しい鳥取砂丘」



教師：鳥取砂丘に落書きをした人に罰金を払ってもらった条例に対してみなさんはどう思いますか？

子供：良い社会にするために法やきまりがあるんだと思います。

子供：落書きぐらいでは罰金を払わせるまでではないと思います。

子供：鳥取砂丘に落書きをした人に罰金を払わせるべきだと思う。また、罰金の金額を上げてほしいと思います。



【グループで話し合う子供たち】

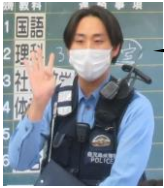


【授業のまとめ】

道徳科の授業後に、身近な場面で、法やきまりがどのように役立っているか考える時間を設定しました。そして、その時間に、地元警察官の方の講話を聞いて生徒同士意見交換をしました。さらに、生徒代表が道徳について学校運営協議会の方と話し合う活動も行いました。

講話「きまりを守るためには」

【講師 地元警察官】



講師：志布志市内の交通事故発生件数が減ったのは、きまりを守ろうと意識する人々が増えたからだと考えています。



子供：安心して生活するためにルールがあるのだと思います。

子供：志布志市の交通事故が減少したのはみんなのルールを守ろうとする気持ちが高まったからではないだろうか。

生徒と地域住民の意見交換

【学校運営協議会で、道徳教育について話し合う生徒代表と地域住民】



地域住民：これからも、学校・家庭・地域が連携をして、全体で取り組んでいく必要があると思います。

子供の感想

- きまりがあることで、人は過ごしやすくなるのが分かった。
- 改めて人々が安心して暮らすためにルールがあり、ルールを守る人が増えることで社会が良くなることに気付いた。

学校から保護者や地域の皆様へ

- 子供はきまりがあることによって自分自身が守られていることに気付くことができます。なぜ、きまりがあるのか、なぜ、きまりを守らなければならないのか、子供と一緒に考える機会をつくってみてはいかがでしょうか。

子供たちは、学校・家庭・地域でよりよく生きようとしています。次のような場面を見たときは、子供の心に寄り添ったり、声をかけたりしてみてください。



あなたなら子供にどのような言葉をかけますか。
□の中に書いてみましょう。

個性の伸長



自分のよいところって
どんなところだろう。ど
うやったら見つかるかな。

親切, 思いやり



おばあちゃん大丈夫
かな。声をかけて、助
けたいけど、断られたら
どうしよう。でも…。



友情, 信頼

いじめはだめだけど、もし、
いじている人に「だめだ
よ。」って言ったら自分がい
じめられるかも。どうしようかな。



勤労, 公共の精神

地域の掃除をするのは大変だけど、
どうしてみんな掃除をするんだろう。



家族愛, 家庭生活の充実

おばあちゃん、
大丈夫かな。どう
したら元気になっ
てくれるかな。



生命の尊さ



生命を大切にすること
なかな。

令和5年度鹿児島県「心の教育振興会議」委員

- 假屋園 昭彦 鹿児島大学教職大学院教授
- 野間 友見 県PTA連合会副会長
- 永里 智広 南さつま市立金峰学園校長
- 長元 武彦 鹿児島市立喜入中学校校長
- 福丸 善大 県教育庁社会教育課社会教育主事兼専門員
- 泉 宗弘 県総合教育センター研究主事
- 田代 祥太 北薩教育事務所指導主事

- 安楽 朋陽 鹿児島市教育委員会指導主事
- 山口 親悟 南さつま市教育委員会指導主事
- 寺地 瞳 始良市教育委員会指導主事
- 前畑 あさよ 志布志市教育委員会指導主事
- 濱田 一平 始良市立柁城小学校教諭
- 中山 繁 志布志市立松山中学校教諭